

# かきおの社協

令和7年7月1日発行 第85号 柿生地区社会福祉協議会 発行人：梅澤 馨 編集人：畠山 和宏  
川崎市麻生区万福寺1-2-2(新百合21ビル1階) 電話：044(952)5500 FAX：044(952)1424  
<http://www.kawasaki-shakyo.jp/asao/>

## 令和7年度 柿生地区社協定時総会が開催されました

令和7年5月22日(木)麻生区役所4階第一会議室で、令和7年度柿生地区社会福祉協議会定時総会が開催されました。

来賓として麻生区長・東哲也様、麻生区社会福祉協議会会長・山本浩真様、麻生区町会連合会会長・笠原勝浩様、麻生東地区社会福祉協議会副会長・佐野幸子様、麻生区社会福祉協議会事務局長・大和田美和子様、柿生地区社会福祉協議会顧問・久保倉清様にご臨席いただきました。

冒頭、司会の大沼洋子理事から定足数が報告されました。会員308名のうち当日出席77名、委任状提出は150名。会則に規定する過半数の出席を満たし、総会は成立しました。

総会に先立って梅澤馨会長は「現在社会構造は大きく変化しています。大家族から核家族、一戸建て住まいから団地やアパート、マンションに住む人が増えました。さらに少子化、高齢化が進み、ニーズに合った対策を実行することが急務となっています。社協は多くの団体に支えられています。今後は町会、自治会、諸団体との連携を強化し、地域の発展に取り組んでまいります」と挨拶しました。

議長に安宅博監事を選出し、令和6年度(2024年度)の事業報告、同決算報告、同監査報告と、令和7年度

(2025年度)事業計画案、同予算案が審議されました。予算の内容、活動費の在り方などについて活発な質疑応答がなされた後、議案はいずれも承認されました。

今年の会議では、柿生地区社協プロジェクトの報告書がまとまったことを受け、杉本秀治理事から発表がありました。2024年に区内3地区で行ったアンケート調査を踏まえて、広報活動の充実、若い世代を含む人材確保など多岐にわたる課題が可視化され、出席者の関心を集めていました。

最後に柿生地区社協の活動に長年尽力された方々の表彰が行われ、熊谷幸代様(柿生第1地区民児協)、丸山聡様(柿生第2地区民児協)、川向満知子様(地域子育て委員会)に梅澤会長から表彰状と記念品が贈呈されました。



役員の皆様

## みんなですすめる みんなのふくし 賛助会員を募集しています

麻生区社会福祉協議会では、2月1日より賛助会員を募集しています。麻生区社会福祉協議会では、福祉に関心のある地域の皆様力を結集し、地域の福祉課題を解決するために賛助会員制度をとっています。地域の皆様には賛助会員としてご加入いただき、会費の納入を通じ、社会福祉事業にご協力を御願います。

**賛助会員募集 1口 1,000円**(何口でもご加入いただけます)

【受付方法】町会・自治会、麻生区社会福祉協議会事務局 万福寺1-2-2 新百合21ビル1F 044-952-5500 \*町会等に所属していない場合は、社協窓口まで

### 賛助会費の使い道(柿生地区社会福祉協議会の活動)

- \*高齢者のためのミニディ、配食サービス・おしゃべり会などの在宅福祉活動実施への支援
- \*ボランティアグループや母親クラブ、子ども会等への支援
- \*支えあい活動の支援
- \*福祉講座・研修会の実施
- \*いこいの家運営への支援
- \*5つの委員会への支援(福祉啓発、地域子育て、青少年福祉、障がい児者福祉、高齢者福祉)
- 他に、麻生区社会福祉協議会の事業に使われています。

みんなでささえる みんなのふくし



麻生区社協 キョウクラウ キュウチャク

麻生区社会福祉協議会の事業は賛助会費を活用しています。賛助会員を募集しています。詳しくはホームページへ。(福)川崎市麻生区社会福祉協議会

## ホームページのお知らせ

<http://www.kawasaki-shakyo.jp/asao/> から右帯の **柿生地区社会福祉協議会** を検索してください。地域の福祉情報、講座・研修の予定等各委員会からの情報を速やかにお伝えするように努めます。

主催：社会福祉協議会 青少年福祉委員会

# インターネットという技術が生んだ、目には見えない社会

情報化社会ができあがった 講師 井上光太郎氏 (IT コンサルティング会社 シニアコンサルタント)

2月3日午後1時30分から、福祉パルあさお(大研修室)で、研修会が開催された。

**コンピューターの進化** コンピューターは紙で行っていた計算を効率化させるための大型計算機だ。モニターとマウスで操作するパーソナルコンピューターが生まれ、情報化社会が生まれた。計算だけでなく、文書や画像も扱えるようになっていった。

**情報通信の進化** 脳の中では索引によって検索する訳でなく、情報がリンクして連想する形で繋がっていく。情報をリンクさせる方法や、離れた場所で同じデータを見ながら共同作業をする。電子メールなどの研究が進む。

この2つの流れが合わさって、インターネットが生まれた。爆発的に利用者が増え、サービスを作る人が増えた。

音楽、動画も扱えるようになり、クレジットカードが利用できるようになると、実社会の様々な仕組みは、インターネット上にも構築されていき、目に見えない社会・情報化社会が出来上がった。

生まれた時代からインターネットがある世代の若者は、電話と同じように日常生活ツールとして使っているが、インターネットの性質を理解していないことも多い。

利便性を追求したネット機能はこんな現象も引き起こす。

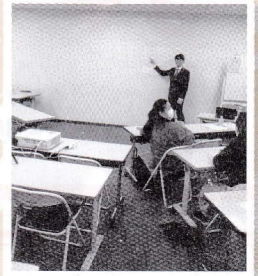
### エコーチェンバー

自分が検索した情報やフォローした意見と、同種の情報や意見ばかりネットが紹介してくるので自分の意見は世界を代弁しているものと錯覚する現象。

### フィルターバブル

自分の興味ある物についての情報しか届かなくなるため、多様な情報から隔離されてしまう現象。

プライベートな発信のつもりでも、実は世界中の人につながっている、ネットに上がった内容は取り消せない。



インターネットは、国境が無く世界中が繋がっている、犯罪も多く、法律も様々なので、管理や取り締まりが追いつかない。

インターネットは、大勢の人の目があり、中には悪意のある人も多く潜んでいる場所に外出している時と同じ気遣いが必須であることを理解する必要がある。

## 「関係団体活動助成金」申請について

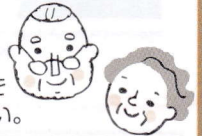
### 募集

- 目的** 柿生地区を活動拠点とし、主として地域福祉活動を行うボランティアグループ・当事者団体・母親クラブ等の活動を支援するため、その活動費の一部を助成し(上限5万円)、小地域福祉活動の充実を図る。
- 対象** 青少年福祉団体、母親クラブ、障がい児者関係団体、小地域福祉活動団体、高齢者給食活動団体
- 申請方法** 助成を受けようとする団体の代表者は、申請書に必要事項を記入し会員名簿を添えて会長に提出する。また、未入会の団体は会員入会届(様式1号)に必要事項を記入し事務所に提出し承認を得てください。助成を受けるには入会承認後となります。
- 申請期間** 令和7年7月1日(火)～7月22日(火)
- 問合せ先** 柿生地区社会福祉協議会(川崎市麻生区社会福祉協議会内)  
川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル1階 電話 044-952-5500 FAX 044-952-1424

## 敬老祝い品の贈呈のお知らせ

柿生地区社会福祉協議会では高齢者福祉事業の一環として、申し込みを受けて、高齢者の方に敬老祝い品を贈呈します。

- 対象者** 柿生地区社協管内の方(下記参照)  
(地区名は下記配布地域を参照)
- 申し込み期間** 7月1日(火)～7月31日(木) **必着**
- お届け時期** 敬老祝日～9月末 (お祝いの品は民生委員児童委員がお届けいたします)
- 申し込み先** 柿生地区社会福祉協議会
  - 郵送または●FAXにてお申し込みください。
  - その際は、①住所 ②電話番号 ③氏名 ④生年月日 をご記入のうえ下記の申し込み先にお申し込みください。
  - 郵送 柿生地区社会福祉協議会(麻生区社会福祉協議会内) 宛 〒215-0004 麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル1階
  - FAX 044(952)1424
  - 問合せ先(麻生区社会福祉協議会) 電話 044(952)5500



郵送やFAXが難しい場合は、左記の問合せ先にご連絡ください。

この広報誌は柿生地区社協管内の「王禅寺・王禅寺西・王禅寺東・白山・虹ヶ丘・上麻生・下麻生・早野・岡上・万福寺・古沢・五力田・片平・白鳥・栗平・栗木・栗木台・黒川・南黒川・はるひ野」にお住まいの皆様にご配布されています。

**編集後記**

「良く知っている」、「少しは知っている」と回答した方は約20%。これは昨年の夏に3つの町内会・自治会から「地域の困りごと、課題調査」と題して行われたアンケート調査内容のひとつで、「柿生地区社会福祉協議会を知っていますか?」の質問に対する結果です。80%の方は知りませんでした。またボランティア活動については、何らかの関心を持っている方が約64%と高い値でした。

「今後の生活に不安を感じることは?」の問いに、約40%の方が健康について不安を感じていました。

さらに「今後の町内会・自治会、柿生地区社会福祉協議会に望むこと?」の問いに、防災関連の取り組みと答える方が多く、次に健康・福祉の取り組みでした。

柿生地区社会福祉協議会の活動は、地域住民による福祉活動に他ならないので、今後に向けて参加しやすい活動の開発と同時にPRを積極的に行って行く必要性を感じました。

折しも「長寿日本一の麻生区」となった今、柿生地区社会福祉協議会の活動が皆さんの健康増進と住みよいまちづくりに繋がれば幸いです。(S・M)